

『マナ』のバカ。今日の『のら』はちよつと変である。何故か丘の上で草をむしっている。』と『のら』に怒られたようである。実は『マナ』のお気に入りの湯飲みを割ってしまったのである。そして『マナ』に「お前は何て役立たずなんだ。のらまののら」出て行け」と散々怒られたのである。『のら』の手はズングリしていて物を掴みにくく、よく物を落とすことがあった。それが原因で家を追い出されたのである。しかし『のら』は行くところもなく、先ほどから丘の上で泣きそうになりながら、草をむしっていたのであった。一方『マナ』は窓の外を見ながら溜息をついていた。『マナ』は『のら』なりに一生懸命やっているのに、言い過ぎたかなと思いい心が痛んだ。「形ある物は何時か壊れるのに」とつぶやいた。『マナ』が窓越しに丘の方を見てみると、不思議と光る物があった。『マナ』はもしやと思い、その方向に走って行った。

『のら』の目からは、いつの間にか涙が溢れ、首の薄汚れた鈴をつたわり地面に落ちていた。その時一陣の風が吹いた。むしった草が飛び散り、『のら』の首の鈴がコロコロと鳴った。『のら』は不思議に思い顔を上げると、そこには『のら』と叫びながら、駆け寄る『マナ』の姿があった。

丘の上で光ったものは何であったのか、帰り道『マナ』は不思議に思った。『のら』の持ち物に光るような物は無かった。やがて丘の下に家が見えてきた。『マナ』がちよつと丘の下の家を見たとき、何かコロコロと鳴ったような気がした。『マナ』が音の方向を見ると、そこには『のら』の嬉しそうな顔があった。

